

# たまのよこやま

東京都埋蔵文化財センター報 No.29 平成5年9月28日

## 「多摩の遺跡展」特集号



縄文ムラの一風景

### 「多摩の遺跡展」

開催にあたって

この展覧会は、多摩ニュータウン遺跡群の発掘成果を中心に、多摩川流域の著名な遺跡から優品を集め、多摩地域における原始・古代の生活の様子を探ろうとするものであります。

ペートーベンは「音楽は、世界の人々に愛され親しまれるものになる」と言いました。考古学も、漸く音楽のごとく、広く理解され親しまれるようになりました。人類の大きな遺産である考古学資料、その本物、良い物を直接観ていただくことによって、「発掘物語」『TAMA』が始まります。この物語を通して、当時の人々の息吹を感じ取っていただき、現代の生活に生かしていただければこの上ないよろこびであります。

(調査研究部長 石井則孝)



## 縄文時代中期のムラと生活

多摩地域の縄文中期は縄文時代の中でも、最も繁栄した時期であったといわれています。温暖な気候のもと、人々は安定した生活を送っていました。遺跡も数多く残されており、中には、中央に広場や墓地をもち、そ

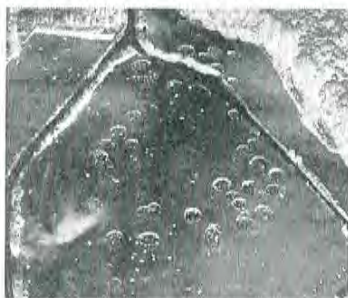


八王子市神谷原遺跡をモデルにした縄文ムラの想像復元図

れらを囲むように家を円形に巡らせる「環状集落」と呼ばれる大きなムラもあります。家が100軒を越えて発見されることもあります。同一時期に存在していたのは、5〜6軒程と予想されています。また、まつりや祈りの際に使われたと思われる特殊な土器や土偶・石棒などの存在も、当期から顕著になります。

### ムラの景観

大きなムラは、住居・墓・方形柱穴列（掘立柱建物）・調理施設の集石・貯蔵穴などによって構成されています。



環状集落（八王子市滑坂遺跡）

### 道具から見た当時の生活

当時の人々は天然の材料を使って様々な道具を考案し、自然の恵みを十分に活かした生活を送っていました。



打製石斧（土を掘るための道具）

### 豊かな精神生活

ムラではその存続と繁栄を願うため、まつりや儀礼が盛んに行われていました。その際に使われた道具の中で、中心的なものが土偶と石棒で、特殊な形をした土器なども作られています。土器の文様にはヘビや人の顔などを表現したのもあり、彼らの精神生活の一面をうかがうことができます。



有孔罎付土器（特殊な土器）



顔面把手付深鉢（八王子市大目中原遺跡）

遺物展示の他に、当時の具体的な生活の様子を見ていただくため、縦穴住居を復元しました。住居の中には発掘調査から明らかになった生活用具をそろえ、縄文中期の生活を再現しています。ここでは、土器作りの



石棒



中期前半の土偶

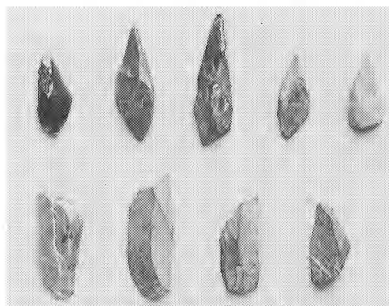
## 旧石器時代のムラと生活

多摩地域の旧石器時代遺跡は、多摩川と荒川の開析により形成された武蔵野台地西南の縁辺部に分布しています。遺跡は、台地の中や丘陵の中を流れる多摩川の支流である小河川の河岸段丘上やその水源付近に特

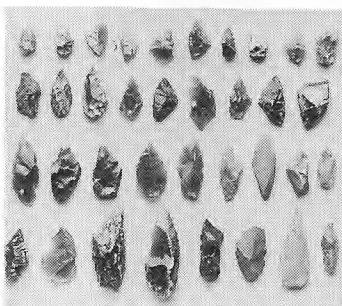


に集中し、中でも代表的な野川遺跡群（府中市・国立市・国分寺市・小金井市他）では、約20kmの流域の中に、50ヶ所以上の大小の遺跡があることがわかっています。丘陵地形からなる多摩ニュータウン遺跡群でも、ここ10数年の間に100ヶ所以上の旧石器時代遺跡があることが明らかにになり、平坦な

台地上にある野川遺跡群などと比べて、遺跡が小規模であるなど、異なった性格を持っていることが、少しずつわかり始めています。展示では、多摩ニュータウン遺跡群の主要10遺跡と野川遺跡群の小平市鈴木遺跡の出土遺物を中心に、対称的な二つの地域の遺跡を、比較できればと思います。



野川遺跡群西之台遺跡



多摩ニュータウンNo.769遺跡

## 縄文時代のムラと生活

今から約1万2千年前に縄文時代は始まり、縄文人たちは、約1万年の間、狩猟・漁撈・採集による採集経済を基盤とした生活を送りました。多摩地域は豊かな森林に恵まれていました。この森林は食料をはじめと



して、住居の構築材や薪など、様々な恩恵を与えてくれるものでした。縄文人の食料資源には、鳥獣類・魚類・貝類・堅果類・根菜類などがありますが、特に木の実などの植物性食料は大量採集や貯蔵が可能で、カロリー値が高いことから、多摩地域の縄文人の主要食料として重要な位置を占めていたと思われます。





後期の集落跡（多摩ニュータウンNo.194遺跡）



前期の土器（多摩ニュータウン遺跡群）



後期の小形土器（町田市田端遺跡）



後期の土偶  
（三鷹市ICU構内遺跡）

### ムラのうつりかわり

多摩地域の縄文人の生活の中で、定住的な生活が一般的になるのは、中期以降のことで、時には、大規模なムラが営まれることもありました。それ以前は移動性に富んだ生活が送られていたようで、ムラの規模も一遺跡で数軒程の住居跡しか見つかからない、小さなものであることが普通です。

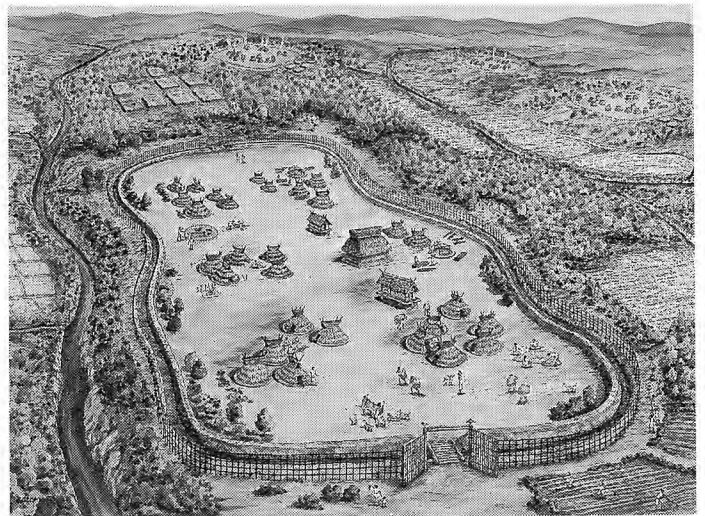
### 土器のうつりかわり

縄文時代は、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期に区分されており、その基準となっているのが土器型式です。これは、土器の器形や文様などを目安として分けられたグループで、時期や地域によって異なります。展示では、その典型的なうつりかわりを、多摩地域の土器で紹介しました。

### まつりと石

中期後半以降、石を用いた遺構が多くなりますが、まつりの場にも配石を造ることが多くなります。代表的な例としては、町田市田端環状積石遺構や調布市下布田遺跡の方形配石遺構があります。縄文人たちは、配石のあるまつりの場で、葬送儀礼や狩猟儀礼を行っていたのでしょ。

## 弥生時代のムラと生活



弥生時代は紀元前4～5世紀から後3世紀半ばまでの約600～700年間で、稲作が始まり、金属製の道具を使い始めます。

多摩地域では、中期初めまで生活の基盤は、縄文時代と同様、植物の採集や狩猟、漁撈

で、稲作はまだ行われていないようです。中期中頃の土器の器面には、稲穂の痕跡が確認されており、稲作との関連が注目されます。

中期後半には、河川や低地を望む台地上に、小規模なムラや方形周溝墓が営まれ、後期後半から古墳時代の初頭には、大規模なムラが出現しました。



金属製の槍と釦  
(狛江市弁財天池遺跡)



方形・円形周溝墓群  
(八王子市神谷原遺跡)

遺構・遺物でわかること  
稲作が定着し、生活が安定すると、人々やムラの中に富と権力の格差が生じるようになりました。建物や墓、そこから出土する様々な遺物の種類や数に差が出始めました。

八王子市神谷原遺跡では方形や円形の周溝墓とともに家からは鉄製品や装飾品が多く出土しています。

狛江市弁財天池遺跡の墓からは鉄や銅製の武器や腕輪が出土しています。

## 古墳時代のムラと生活

古墳時代は、3世紀半ば頃から7世紀初頭までの約400年間です。列島の一部の地域を除き、前方後円墳が各地に築かれた時代です。

4世紀代に多摩川下流域に前方後円墳が築造され、畿内政権との直接



的な結びつきをうかがうこともできます。5〜6世紀代には下流域にも古墳やムラが展開します。古墳に葬られる首長たちは、居館を構え、そのまわりに一般のムラが展開する場合もあり、ムラの構造が大きく変化しました。

古代国家の基礎形成が始まる激動の時代です。

### 多摩地域の古墳時代

多摩川中流域には、6世紀中頃から古墳が構築され始めました。その周辺には、それらの古墳に様々に関わった人々のムラがあります。

多摩市塚原5号墳は、多摩川右岸に展開する和田・百草古墳群の一つで、この地域を統括した集団の

首長の墓です。石組みの横穴式石室を持ち、鉄製の武器(刀・刀子・鏃)や土器などが副葬されていました。

この時代のムラは丘陵の様々な場所に造られ、いろいろな生業をしていました。ムラの中からも装身具やまつりに関わる品々がたくさん出土しています。



石室 (多摩市塚原5号墳)

装身具 (多摩ニュータウン遺跡群)



上・古墳時代の土器  
(多摩ニュータウン  
No.916遺跡)

## 奈良・平安時代のムラと生活



奈良時代になり、都の建設・律令制度の整備等、国家の体制が整ってきます。ところが平安時代になると徐々にその体制が乱れてきます。各地の有力者が土地を私有化して力を蓄え、後の武士団へ成長していきます。

武蔵国の誕生と国府  
国府とは今の県庁所在地的なもので、全国68ヶ国に設置されました。国司が派遣され国内の政を司っていたのです。武蔵国は今の東京都、埼玉県、横浜・川崎市が範囲でした。武蔵国府は今の府中市に設置されました。当時の文化の中心地にふさわしい優れたものが数多くみつかっています。

### 国分寺の創建

国分寺とは、奈良時代に聖武天皇の詔に基づいて建立された寺で、総本山が奈良の東大寺です。武蔵国では今の国分寺市に創建されました。全国でも屈指の規模を誇っていました。国分寺からは屋根に葺いた膨大な量の瓦が出土しています。軒先瓦や鬼瓦、武蔵国内の郡・郷名や人名が書かれたものなどが数多くみつかっています。

### 古代のムラ

奈良時代になり、律令体制の下、丘陵奥地や低地などの開発が進み、人々が入植して暮らすようになります。



奈良時代の土器



平安時代の土器



平安時代の土器（移動式カマド・土鍋）

す。当時のムラでは、一般庶民は竪穴住居に住み、農作業を主にして生活していました。平安時代になりました。普通の人々にも掘立柱住居が現れます。生活用品としては、土器・鉄器・木工製品等があります。土器には素焼きの土師器、窯で焼いた須恵器があり、鉄器は各ムラにも普及して様々な農具や武具がありました。

### 文字資料

古代の遺跡では文字が記された遺物が発見されることがあります。木簡・漆紙文書、墨書・刻書土器、線刻紡錘車、焼印等です。特に土器に墨やヘラで文字

を書いた墨書・刻書土器は、普通のムラからも多く出土しています。国府などの役人のみならず、各ムラにも文字を読み書きできる人がいたことを物語っています。

### 生産

古代の多摩における生産といえば、窯業・鉄工・木工・牧（馬の飼育・生産）等があげられます。

奈良時代は国や郡の管理の下、律令体制の乱れた平安時代には各地の有力者の影響力の下で様々な開発・生産が行われました。特に窯業（須恵器）は平安時代に活発になります。



### 多摩の木工生産関連 遺跡と技術

木器は、石器や土器とは違い、台地や丘陵の集落遺跡では残りにくい遺物ですが、多摩地域では近年、低地遺跡の調査が進み、各時代の様々な木器が出土するようにになりました。

特に多摩ニュータウン遺跡群では、古墳時代から中世にわたる木器の生産に関わる遺跡が調査されており、各時代の生産技術や生産体制などを考える上で重要な資料となっています。

今回の展示は、奈良・平安時代の木工技術の復原を中心として、中世初頭の漆器の生産にもふれたた内容になっています。

No.243・339遺跡からは、木製容器の製品とともに、皿・椀・鉢などの容器の未製品が多量に出土しており、古代の木工技術を復原することが可能です。

容器の製作技術には、仕上げに木工轆轤を用いる挽物と、用いない刳物が存在

していました。展示では、未製品から、だんだんと製品に仕上がっていく過程を観察することができます。

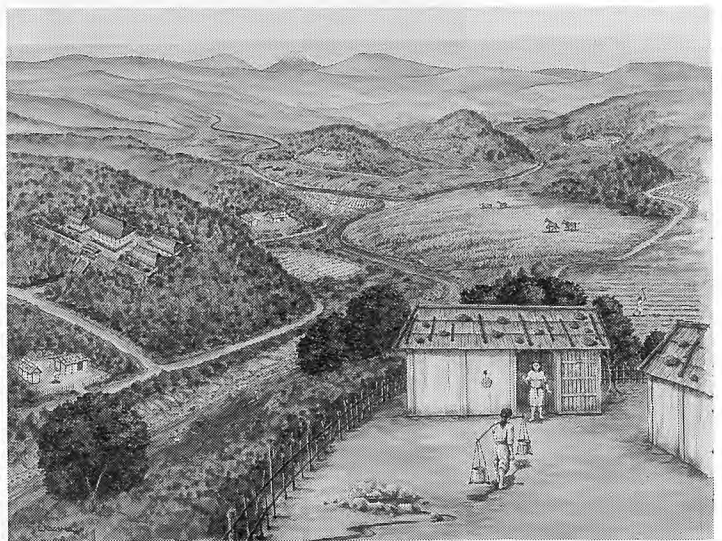
No.107遺跡は、挽物容器や曲物などの製品が多量に出土した遺跡です。古代の木製容器には、どのような種類や形があるのかをみていただきます。

日本での漆器の生産は、縄文時代前期に溯るほどの古い歴史をもっています。古代の木製容器は、ほとんどが白木のものであり、漆器は金属器と同じく高級品であり、使える人々は限られていました。

中世になると、東日本では漆椀が普及したものと考えられています。No.493遺跡はその頃の12世紀中葉の遺跡で、漆椀・曲物や、容器の未製品などが出土しており、漆器の木地生産に関わった遺跡と推定されます。

展示では、漆椀や容器の未製品とともに、当時の生活用具や祭祀遺物も一部出展する予定です。

## 鎌倉時代のムラと生活



八王子市由木地区は、多摩ニュータウン建設事業に伴い、大規模に遺跡調査が行なわれています。その調査成果により、一つの鎌倉時代のムラの様子が明らかになりました。

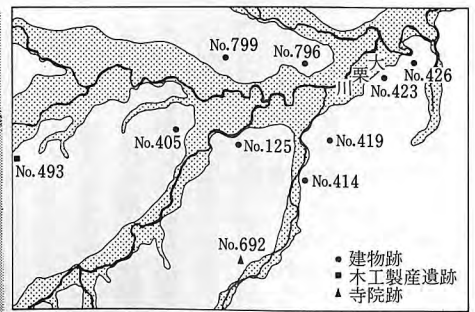
各戸の建物は、直接地面に穴を掘

り、建物を建てた掘立柱建物といわれるもので、大型と小型の建物が一組となり、200〜300m間隔で点在すると考えられています。

出土する遺物には、国内産の陶器、中国産の陶磁器（船載陶磁器）、鉄製品などがあります。一つの遺跡で各遺物が多量に出土することはありませんが、日常的に必要な製品をそなえ、あ



国産陶器・土器



八王子市由木地区の遺跡分布図

る程度貴重な品であった船載陶磁器を所有していたことは、この時代、この地域の各戸が、経済的に自立し得ていた証しになります。

文化財講演会と  
文化財映画鑑賞会

今年も前述の遺跡展とも関係しますが、多摩の発掘調査と新しい研究成果を紹介すると共に多摩地域の歴史を考へる場を提供したいものと考え、講演会等を含めました。

特に、多くの調査例をもつ集落跡遺跡を中心にテーマを設定しました。

6月4日(金)午後6時30分から当センター調査研究員による講演の予定でしたが急病のため、代わりに同じく調査研究部長石井則孝による講演「多摩ニュータウン発掘15年の成果・縄文中期集落跡を中心に」が行われました。参加者82名。



講演する石井調査研究部長

6月12日(土)午前11時から学校五日制対応事業として、文化財映画鑑賞会が行われ、映画「古代史の発掘」が上映されました。引き続き、午後1時30分から国分寺市教育委員会吉重蔵氏による講演「むさし国分寺のはなし」が行われました。参加者124名。



講演する荒井健治氏

6月18日(金)午後6時30分から府中市教育委員会荒井健治氏による講演「むさし国府のはなし」が行われました。参加者97名。



講演する福嶋調査研究員

6月25日(金)午後6時30分から当センター調査研究員福嶋宗人による講演「中世の多摩集落」が行われました。参加者69名。



講演する橋本博文氏

6月23日(水)午後6時30分から早稲田大学橋本博文氏による講演「古墳時代の多摩」が行われました。参加者73名。

文化財講演会

発行  
財団法人 東京都教育文化財団  
東京都埋蔵文化財センター  
〒206 東京都多摩市落合  
1-14-2  
☎ 0423-73-5296  
平成5年9月28日

30分から映画鑑賞と展示説明会が行われました。この催しは、当センターにおいて行われている2週間の博物館実習の一貫として行われたものです。8名の実習生がこの催しを実際に運営しました。司会、映写係、展示解説員等に分担して、これに当たりました。映画「奥会津の木地師」の上映とセンター展示ホールの解説が行われました。参加者58名。

8月2日(月)イラン回  
教授サードク・マレク・シャ  
フミルサード博士が来所されました。

氏は、イランにおける新石器時代および青銅器時代を専門とした考古学者です。今回、国際交流基金による、文化人短期招聘事業の一環で招聘された方です。当センターの施設およびNo.72遺跡の縄文時代中期住居跡群の調査を熱心に見学されました。

海外からの研究者



展示解説